

### 33 腹膜透析カテーテル挿入時の腹壁固定術 (new PWAT)

山梨大学大学院医学工学総合研究部泌尿器科<sup>1)</sup>、栗山会飯田病院泌尿器科<sup>2)</sup>

神家満 学<sup>1)</sup>、梅田俊一<sup>2)</sup>、深澤瑞也<sup>1)</sup>

#### I 緒言

腹膜透析カテーテルの位置異常は文献上5～24%に生じ、注排液が困難になるとされている。またカテーテル位置異常の際には緊急処置が必要になり患者・医療者ともに対処に苦慮することがある。そこで位置異常を呈してから対策するのではなく、挿入時点から可能な限りその予防を行うことが重要だと考え、挿入時に簡便にカテーテルを腹壁に固定する方法 (New PWAT; Peritoneal Wall Anchor Technique) を考案し、施行している。

#### II 方法

通常のカテーテル留置に加え、内部カフ挿入部からPWATアプリケーション(図1)を挿入し腹壁の内側から体表面に穿刺し、ナイロン糸を用いてカテーテルを前腹壁に固定する。

詳細は深澤らの透析会誌 39(4) 235-242, 2006を参照していただきたい<sup>1)</sup>。

#### III 結果

現在までに1例に再発を認めたが、その他の症例では位置異常が原因で処置を必要とする症例はいなかった。

#### IV 考察

注排液異常などを伴う位置異常に対しては緊急的な処置が必要となる。ガイドワイヤーなどを使用したアルファ整復術<sup>2)</sup>、下腹部切開示指矯正法<sup>3)</sup>などの報告がある。しかし、なってから対処するのではなく、なる前に予防することが重要である。まずは留置時に正確な手順をふみ、適正な位置に留置することが重要である<sup>4)</sup>。それにも拘らず、導入後又はSMAP待機中に位置異常を起こすことがあるため、カテーテル留置時にPWATアプリケーションを用いナイロン糸で1針腹壁固定する

PWATを行っている<sup>1)</sup>。腹腔内のカテーテル可動域を減少させ大きな位置異常を起こさせないようにし、臓器倦絡から回避する効果は高いものと思われた。このPWATは腹膜透析カテーテルの位置異常に対する予防効果が期待できると考えている。

#### V 最後に

PWAT アプリケーターや技術的な問い合わせは、山梨大学医学部付属病院泌尿器科 深澤にお願い致します。(医局 055-273-9643)

#### VI 文献

1) 深澤瑞也, 他: 新規導入時に行う腹膜透析カテーテルの腹壁固定術 (New PWAT). 透析会誌 39(4): 235-242, 2006

2) Kawamoto S, et al.: Correction of CAPD catheter displacement using alpha-replacement method. Clin Exp nephrol 9: 53-57, 2005

3) 渡辺恒明, 他: 腹膜透析位置異常に対する下腹部切開示指挿入矯正法. 腎と透析 47 別冊腹膜透析 1999: 134-136, 1999

4) 窪田実: カテーテル位置異常への対処法を教えてください. 腎と透析 64(5): 825-827, 2008

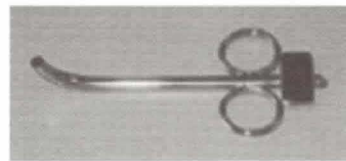


図1) PWAT アプリケーター

別冊請求先: 神家満 学 〒409-3898

山梨県中央市下河東 1110

山梨大学医学部付属病院泌尿器科